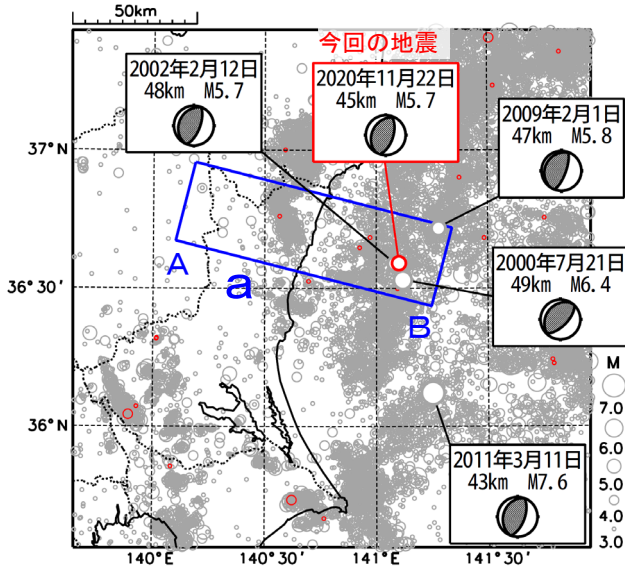


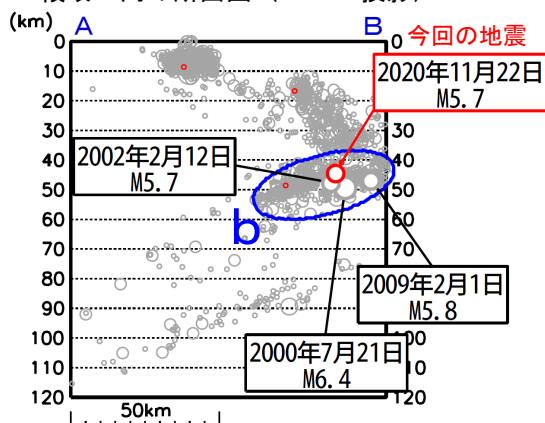
11月22日 茨城県沖の地震

震央分布図

(1997年10月1日～2020年11月30日、
深さ0～120km、 $M \geq 3.0$)
2020年11月の地震を赤く表示
図中の発震機構はCMT解

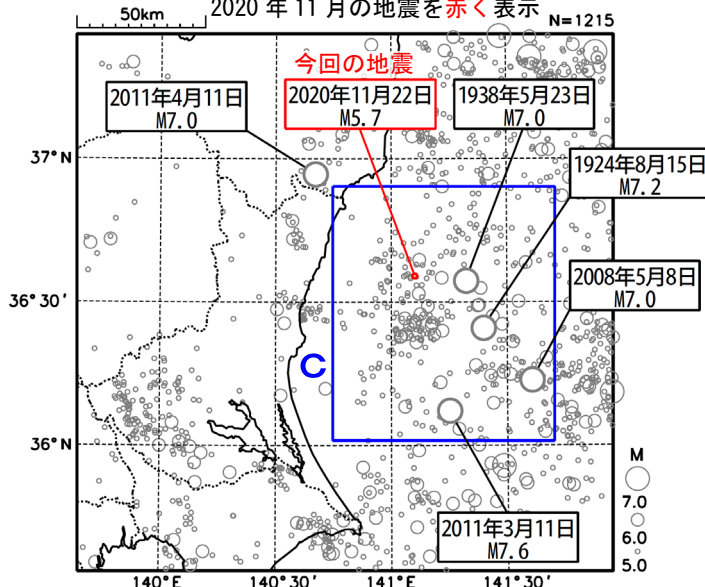


領域a内の断面図（A－B投影）



震央分布図

(1919年1月1日～2020年11月30日、
深さ0～120km、 $M \geq 5.0$)
2020年11月の地震を赤く表示

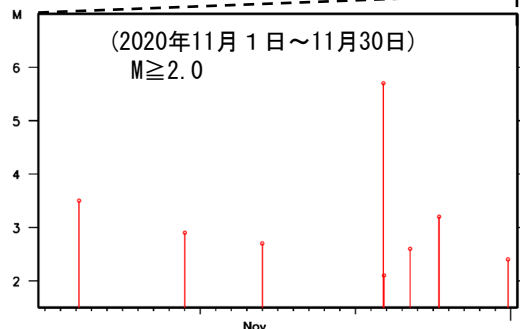
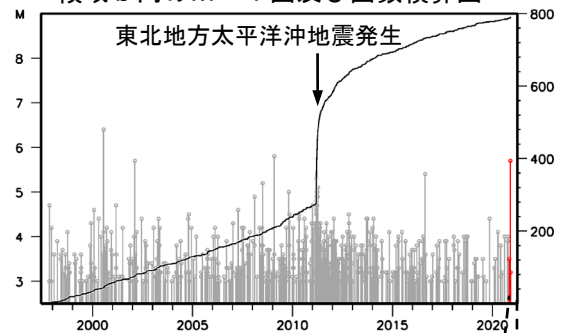


2020年11月22日19時05分に茨城県沖の深さ45kmでM5.7の地震（最大震度5弱）が発生した。この地震は、発震機構（CMT解）が西北西－東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した。

1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近（領域b）では、2000年7月21日に今回の地震の近傍でM6.4の地震（最大震度5弱、住家一部破損等の被害あり）が発生するなど、M5.5以上の地震が時々発生していた。「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」の発生以降の数年間は地震活動が一時的に活発になった。

1919年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域c）では、M7.0以上の地震が時々発生している。このうち1938年5月23日に発生したM7.0の地震では、福島県小名浜で83cm（全振幅）の津波が観測された（「日本被害地震総覧」による）。また、2011年3月11日15時15分に茨城県沖で発生したM7.6の地震（最大震度6強）は、東北地方太平洋沖地震の最大余震である。

領域b内のM－T図及び回数積算図



領域c内のM－T図及び回数積算図

